

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築評価2019年版、名古屋中規模建築物環境性能評価マニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)オープンレジデンス東区葵一丁目	階数	地上15F
建設地	名古屋市東区葵一丁目906番、912番、915番、916番	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域(集団防火)、緑化地域、駐車場整備地区、都市機能誘導区域内、居住誘導区域内	平均居住人員	272 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	
敷地面積	1,215 m ²	作成者	
建築面積	512 m ²	確認日	
延床面積	6,214 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>= BEE1.1 ★★★★★★☆☆☆☆</p> <p>★:S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★ B:★★★ C</p>	<p>☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+</p> <p>46 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア= 2.7</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.5</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.3</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.1</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 2.8</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	周辺に配慮した外観、駐車スペースを確保した。	
その他		
Q1 室内環境	衝撃音に対する遮音性に優れており、スラブ厚250mm以上を確保。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	階高2.91m以上、室内高2.45m以上とし、ゆとりのある住空間としている。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	住戸数の60%以上の駐車スペースを確保し、駐輪場は利用しやすい工夫した。	
LR1 エネルギー	共用部の照明はLEDを使用し、消費電力を抑えた。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル		LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	周辺住民に配慮し、隣地境には緑を設けた。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)オーブンレジデンシア東区葵一丁目

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				3.0
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.6	
2. 自然共生	評価点 = 1.9	
3. 循環型社会	評価点 = 3.0	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3.3.1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3.2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3.3.1の全体に対する重みに0.2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3.2.3のうち、LR3.2.3.3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3.2.3の評価点とは異なるものである。